

もっと知りたい 福生市の史跡と文化財（４）

ガイドマップ「史跡と文化財」では取り上げていませんが、より知っていただきたい文化財について紹介しています。

でんじとういど 伝 地頭井戸

観光ガイドマップF-4

熊川地区に残るこの井戸は地頭井戸と呼ばれ、江戸時代に徳川幕府の旗本（地頭）で熊川鍋ヶ谷戸地区を治めていた長塩氏が、水不足に悩む領民のために井戸を掘り与えたという伝承を持っています。そのため「伝 地頭井戸」と呼ばれています。



整備された「伝 地頭井戸」

昭和 30 年代まで地域の共同井戸として使われていました。

地頭井戸の伝承を持つ井戸は熊川地区に 4 基ありましたが、現在まで残されたものはこの井戸のみです。

伝地頭井戸は、地頭と村民の支配体制や当時の社会構造を知る上でも貴重な文化財であり、未来に伝えるべき郷土の大切な文化遺産であることから、平成 20 年 7 月 2 日に福生市登録文化財に登録されました。

井戸の移り変わり<参考>

明治のつるべ井戸

熊川村の森田浩一（明治 24 年、1891 生）が描いた井戸の絵です。

浩一が府立二中在学時の明治 39 年（1906）に描かれました。この絵から、明治期にはつるべ井戸があったことや、井戸枠は桶でつくられていたことがわかります。



昭和の井戸

昭和 30 年代に福生の風景を描いた宮本雅夫の井戸の絵です。

覆屋に滑車があることから、元はつるべ井戸であったものを手押しポンプに改良した井戸で、水の汲み上げ方式の変遷がわかります。



もっと知りたい 福生市の史跡と文化財（４）

ガイドマップ「史跡と文化財」では取り上げていませんが、より知っていただきたい文化財について紹介しています。

江戸時代の福生市域の支配の様子

現在の福生市域は江戸時代には福生村と熊川村に分かれていました。

市内に伝わる資料から支配体制をみると、福生村は1650年頃には4人の旗本領と江戸幕府が直接支配する地域とに分かれていますが、1734年までには全村が幕府の直接支配する地域となったことがわかります。また、熊川村は江戸時代を通じて江戸幕府が直接支配する地域と2人の旗本領の3つの地域になっていました。

熊川村にあった旗本領のうち、鍋ヶ谷戸地区^{なべがやと}を治めていたのが長塩氏^{うちで}、内出地区を治めていたのが田沢氏でした。現在残っている伝地頭井戸を掘り与えたといわれているのは、この長塩氏です。

この両氏は、ともに元は甲斐の武田氏の家臣でしたが、武田氏滅亡後の天正10年（1582）、徳川氏に仕え、熊川村を治めることになりました。

長塩氏と田沢氏の墓は現在でも福生市内に残っています。長塩氏の墓は鍋ヶ谷戸地区にある福生院^{ふくしょういん}（観光ガイドマップF-4）に、田沢氏の墓は内出地区にある真福寺^{しんぶくじ}（観光ガイドマップG-4）にあり、それぞれ福生市の指定史跡になっています。

長塩氏の墓、田沢氏の墓は伝地頭井戸とともに、熊川地域の江戸時代の様子を直接学ぶことのできる貴重な文化財です。



長塩氏の墓（福生院）



田沢氏の墓 附、家臣の墓（真福寺）